



ありコンへの想いを形にして…

先日の大雪の残雪が、校庭の日陰の箇所はまだ見えています。日中降り注ぐ日差しには、春の近づく気配を日々感じていますが、ニュースで見るコロナ感染者数には、一向に収束する気配すら感じる事ができません…。2月9日に通知させていただきましたが、本校の行事の中では、ある意味最も重要な意義を持つ「ありがとうコンサート」の中止の判断は、本当に苦渋の選択でした。

文科省や県からの要請があり、1月下旬から練習は停止せざるを得ませんでした。その当時には、少しでも状況がよくなれば、と諦めない気持ちを正直抱いていたのですが…。何度も先生方と検討を重ねました。一番に心配になることは、やはり子どもたちの気持ちの部分でした。児童も職員も、ありコンの大切さを誰しもわかっているからです。昨年度は、バンフェスが中止となりましたがありコンは実施でき、一年間の活動の締めくくりと次年度への引継ぎである機会として、子どもたちが心の中でもバトンタッチをしていた様子をも見ていたからです。6年生は、いよいよ卒業が近づく最後のステップとなり、下級生たちは、卒業していく先輩から南小の伝統を受け取り、自分たちで一つ階段を上ろうと心に決める日でもありました。本校にとってのありコンは、全てが詰まった大切な大切なものです。また、保護者の皆様にとりまして



5年生が心を込めて作ってくれたスローガン…
コンサートの装飾のメインとなるはずでした…

でも、とても楽しみにされていたものだったと思います。

しかし、できないのなら、できない事を悔やんでばかりいるのではなく、できる事をやっという気持ちで切り替えて、現在、思い出のページとなるような催しを、児童と一緒に準備し始めています。頑張ってくれた6年生と、これからの南小を背負ってってくれる在校生で、力を合わせていい会を作り上げてくれることでしょう。雪が解けて、暖かい春がやって来るいつの日にか…。



楽器整備をし、ケースにぞっとしました…

今年も学んだプログラミング学習

14日には、こここのところ毎年、講師として来ていただいている山梨県産業技術短期大学の安本先生から、5年生と6年生が2時間ずつ、プログラミング学習の講座を受けました。

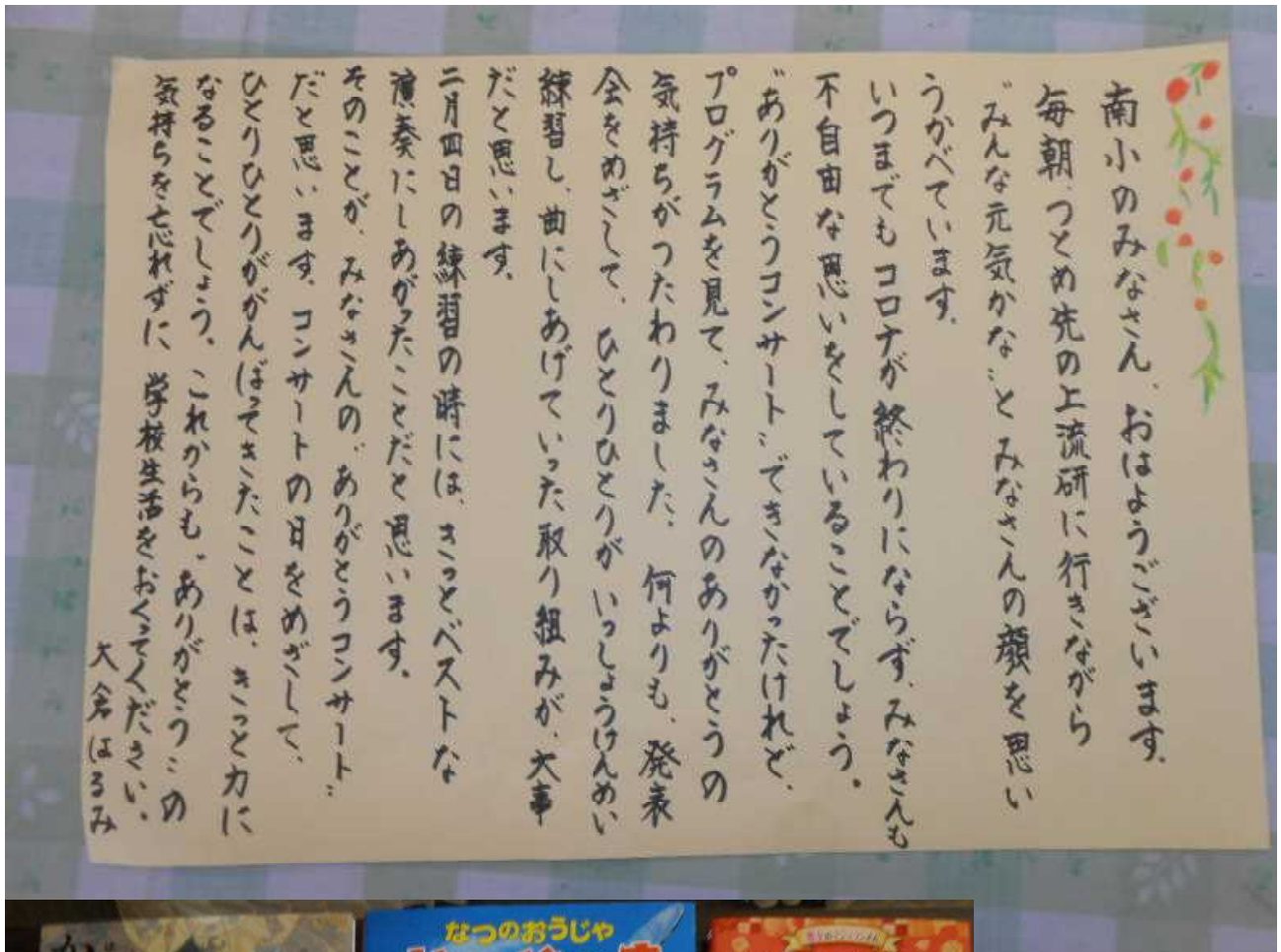
初めての5年生は、初歩的なソフト「スクラッチ」を使い、平面上に図形を描くプログラミングを体験しました。PCは指示された通りに動くので、正しい指示を出せば正確に、正しくない(想定していない)指示を出してしまうとそれを正確に実行しようとするので、変な図形が描かれてしまいます。初めての経験で戸惑いながらも、楽しそうにマウスを操作していました。

6年生は2回目なので、それより少し高度な内容に挑戦し、LEDライトの電飾をきれいに点けるプログラミングを設定できていました。



大倉先生より

いつも大変お世話になっている、上流研の大倉はるみ先生が今日学校に来てくださり、お手紙と本をくださいました。本校の元校長先生ですので、いつも南小のことを、そして南小の児童のことを気にかけてくださっています。心温まるお手紙をいただきましたので、載せさせていただきます。「コンサートを目指して頑張ってきた練習で、ベストの演奏に仕上げたことがみなさんの”ありがとうコンサート”です。」との言葉には、ありコンの意義をわかってくださっている方のお言葉と、目頭が熱くなります。本当にありがとうございました。これからも、私たち南小を応援してください。よろしくお願いいたします。



新刊本も6冊いただきました。どの本も、すぐに手に取って読みたくなるような本です。

現在、図書館の蔵書点検中ですので、それが終わってから、また読んでみてくださいね。

大倉先生、本当に、ありがとうございました。